

令和7年10月14日（火）鳴門市記者会見

質疑応答要旨

UZUPARK（ウズパーク）のリニューアルについて

（記者）

リニューアルにおいて試行運用期間を設けるのは、なぜですか。

（市長）

施設について、どのように使っていただけるかや、フットサルコートについては利用時間の延長希望もいただいておりますので、試行運用期間でのご意見等を踏まえて本格運用時の基準を定めたいと考えています。

（記者）

12月のプレオープン時のイベントの内容について教えてください。

（市長）

現在、検討をしているところであり、お話をできるところまでは決まっていません。

新スポーツ施設について

（記者）

3月に構想を練り、今回再検討をされることでしたが、その結果、3月の構想時に戻るということはありますか。

(市長)

現状、候補地はボートレース場が最有力であると考えていますが、今回の再検討では、それらを決めた段階ではなかった、鳴門駅前のスーパー・マーケットの撤退や、「鳴門の顔」をどうするかということで、現在デザイン会議で行っている議論の内容など、市民の皆さんからそれらを踏まえて考えるのはどうか、というご意見があつたことによります。ただし、プールを待っているとのお声もありますので、今年度内に結論を出します。

(記者)

今回の再検討では、候補地以外に、施設の中身についても検討することによいでよいでしょうか。またどのように再検討を進めていくのでしょうか。

(市長)

施設の設置がボートレース場ということであれば、体育館、プールを計画することになりますが、仮に街の中に設置することになるとすれば、人が集まる「会所」をイメージした施設、皆さんで様々なことをそこで行っていただけるような施設も考えられます。基本構想時の検討組織は解散していますので、改めてということになりますが、今後は、ボートレース場以外での検討となれば、市有地以外になるかもしれませんし、施設面積やプールなどの施設機能はどうするかなど細かくなりますので本格的な議論を早めにしたいと考えています。

(記者)

中心市街地の中で、候補地はまだないといった状況でしょうか。

(市長)

以前の候補地検討時には、鳴門駅西側も検討していました。当時は、そのほかにも「うずしおふれあい公園」、「旧衛生センター敷地」、「ボートレース場西側敷地」を皆さんに検討していただきました。今回は、街中という視点も加えて検討していきます。

「第九」について

(記者)

8月に認定NPO法人「鳴門第九を歌う会」が解散されて、市のほうに活動を引き継いでほしい、との要望も出されていましたが、そのことについてのお考えはどうでしょうか。

(市長)

鳴門の「第九」は、鳴門市の宝でありますので、しっかりと支えて守り、継承していくという気持ちは今も変わっていません。かつては市が直営で行っていた事業であり、その後NPO法人のほうで事業を行っていただき、市が支援をする形になりましたが、その形はよかったです。今回の解散を受けて、もう一度市の直営に戻すのかどうかといった議論はありますが、市としては今の流れのほうがいいのではないかと考えていますので、NPO法人の関係者の皆さんにヒアリング

をしながら新たな団体の立ち上げも含めて、今後について検討しているところです。最終決定はまだしていませんし、多くの意見をお聞きしているところですので、近々、何らかのご報告ができるのではと考えています。令和9年6月の文化会館のリニューアルオープンに向けて、第九の火を途絶えさせないよう進めていきます。

「徳島ヴォルティス」について

(記者)

徳島ヴォルティスのプレーオフ進出に関して、今後市としてどのように機運醸成などを行うのでしょうか。先日お話をされていたサッカー専用スタジアムについてはどうでしょうか。

(市長)

先日鳴門市民デーを開催しました。これからプレーオフ進出になれば、地元にスタジアムがあるということで、何かJ1に上がるような後押しを考えていきたいと思います。先日の挨拶時に専用スタジアムのお話をさせていただきましたが、多くのチームが専用スタジアムを持っており、これから構想をしているところが増えていました。そのような中で、皆さんと一緒に夢を持てたらという思いに立ってのことでした。今後のこととは、少しお時間をいただければと考えています。